

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第23回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和4年2月14日（火） 12時15分～13時15分
- 2 場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎122講義室
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
陪席者：高田（セコム）、斉藤（筑波大学）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 次年度の運営委員会及び幹事会の構成について

遠藤副会長から、資料1-1～1～4に基づき、次の説明があった。

- 運営委員会の現委員長が離任されること
- 各参画機関で4月の定期異動が見込まれること

これを踏まえて、各参画機関に4月中旬を締切に運営委員会委員の交代等の有無を照会し、5月開催予定の総会で委員を決定のうえ、会長の互選（残任期間1年）を行うことが承認された。

(2) 令和5年度年間活動計画（案）について

遠藤副会長から、資料2に基づき、年間活動計画（案）の説明があり、原案のとおり承認された。また、4月開催予定の第24回幹事会の出席者について意見交換が行われ、次のとおり承認された。

- 遠藤副会長が会長を代行すること
- 防災科学技術研究所の代表者として、同研究所理事長が出席すること
- 林春男現会長はオブザーバーとして出席すること

(3) Joint Seminar 減災との第3回共同シンポジウム開催について

遠藤副会長から、資料3に基づき、シンポジウムの事前登録人数（会場51名、オンライン275名）について報告があった。

(4) JST 共創の場形成支援プログラムについて

遠藤副会長から、資料4-1～4-2に基づき、R2ECが協力機関として参加している「JST 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の進捗報告があった。

また、遠藤副会長から、拠点運営委員会委員に協力機関の代表者としてR2EC幹事会委員を追加することが提案され、3月13日（月）の第2回拠点運営委員会（神戸国際会館セミナーハウス9F902会議室+Zoomのハイブリッド形式）から出席（林委員・甘利委員）を依頼することとなった。

続いて、次のとおり意見交換があった。

遠藤副会長：本格型申請に際し参画機関の増加が必須となるため、R2EC機関にCOI-NEXT参画機関として参加いただくことを検討願いたく、5月開催予定の総会で説明を行いたい。

林会長：参画説明の際に、メリットとして企業からの持ち出しなしに共同研究が可能であるという点を強調してはどうか。また、大学が実施するプログラム（公開講座や講義等）に係る旅費は大学で負担する旨は説明しておいた方が良いのではないかと。

- (5) その他
特になし。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和5年度協働大学院教員及び非常勤講師について

岡島委員から、資料5-1～5-2に基づき、令和5年度の協働大学院教員・非常勤講師による教育体制について次の報告があった。

- ▶ 日本自動車研究所の内田信行教授（協働大学院）が年度末で退任予定であり、新規の協働大学院教員人事が進んでいること
- ▶ 今年度末に協働大学院教員を主指導とする初の修了生（博士号取得見込1名、修士号取得見込2名）を輩出予定であり、令和5年度も協働大学院教員による主指導・副指導を拡充していく予定であること

(2) 令和5年度開設授業について

岡島委員から、資料6に基づき、令和5年度開設授業科目のうち、協働大学院教員及び参画機関の非常勤講師の担当科目について次の報告があった。

- ▶ 「リスク・レジリエンス工学概論」は、理工情報生命学術院の共通科目として、リスク・レジリエンス工学学位プログラム以外の学位プログラムの学生からも受講があること
- ▶ 「サイバーレジリエンス演習」では、出向中の本学専任教員に代わり島岡政基准教授（協働大学院）に多くの授業時間数を担当いただくなど、様々な科目で参画機関に協力いただいていること

(3) 令和5年度開催「大学院教育改革フォーラム」について

岡島委員から、資料7に基づき、令和5年12月1・2日につくば国際会議場で開催予定の「大学院教育改革フォーラム」（幹事校：筑波大学）について次の説明があった。

- ▶ 卓越大学院プログラムが主体のフォーラムだが、準備室長より協働大学院プログラムにも参加依頼があったこと
- ▶ 「産業界との連携による学際化」などの観点から、参画機関にパネルディスカッションへの参加をお願いする可能性があること

- (4) その他
特になし。

以上